



SV ニュース千葉

千葉県 JICA シニアボランティアの会

創立 20 周年記念 第 39 号

2023 年 11 月 1 日発行

<http://www.chibajicasvob.com>

chibajicasv02@gmail.com

創立 20 周年にあたって 歴代会長からのメッセージ

品川 洋之助 2004 - 2010 年度会長

「SV 会 20 周年記念に際して」

2003 年春、畏友及川淳一氏より「千葉県に JICA シニアボランティア OB 会を作ろう」との呼びかけがあり、それに呼応して同志数人が集まり創立準備に入りました。当時の JICA 千葉デスク塩沢かおりさんが連絡事務、会場の準備など全面的に協力して下さいました。7 月 5 日設立総会と懇親会を開催し会員 32 名で発足しました。初代会長は及川氏で、彼は元職員なので JICA の内情に詳しく情報も正確でした。梅谷陽子さんが副会長となり青年協力隊 OB 会の「作文コンテスト」の選考に参加するなど連携に注力しました。私は同年 9 月家内がスリランカコロンボ大学の日本語教師として赴任したのに随伴し 2004 年 6 月帰国しました。及川氏は 10 月にドミニカに派遣が決まったことから、会長就任の依頼があり、それを受けて当会 2 代目会長となりました。

津田 正臣 2013 - 2014 年度会長

創立 20 周年お慶び申し上げます。

当会は千葉県における地域住民の国際理解の推進に大きく貢献してまいりました。当会の更なる発展と皆様のご健勝を祈念しお祝い申し上げます。

三輪 達雄 2020 - 2022 年度会長

会の創立 20 周年、おめでとうございます。

JICA のシニアボランティアの定義の変更により、今後の本会の存続は厳しいものになっていくと想像されますが、今後の役員各位の創意工夫を期待します。

中西 陽典 2023 年度現会長

私は、2012 年からドミニカ共和国、2016 年からアルゼンチンに各 2 年間派遣され、2018 年に帰国しました。当会の HP に「会長就任のご挨拶」を掲載しましたのでご覧ください。

2023 年度通常総会

2023 年度通常総会が 2023 年 5 月 14 日 (日) 午後 3 時 10 分から浦安市国際センターで、来賓として、JICA 東京の折田明美次長と浦安市国際センターの知花大輔センター長をお迎えして開催されました。

出席者 25 名、委任状提出者 27 名、計 52 名は会員

の 80%であり、総会は成立しました。1 号から 7 号までの議案のなかで、6 号議案の会員規定改訂は議論の結果取り下げられましたが、その他は原案通り承認され、総会は滞りなく終了しました。総会后、第 1 回拡大役員会が開かれ新役員の分掌が決定されました。

会長挨拶 三輪 達雄



2022 年度は本会会員の派遣者はいない厳しい状況でした。そんな中でも 2 回の活動報告会を、中身を再考してやりまして出席者からは

好評でした。また、出前講座を 15 開催する事ができました。講師を引き受けられた皆様に感謝いたします。今年度も厳しい状況が続きます。総会后に拡大役員会を開き皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。また、久しぶりに懇親会もセットしていますので可能な方はぜひご出席ください。

2023 年度 新役員人事と分掌

会 長	中西 陽典	(我孫子市)
副 会 長	佐々木 英夫	(流山市)
事務局長	高瀬 義彦	(柏市)
幹 事	江田 隆正	(千葉市)
幹 事	登内 明	(浦安市)

幹 事	露木 雅美	(浦安市)
会計監査	添野 良一	(鎌ヶ谷市)
特任委員-Web 管理	黒田 啓嗣	(野田市)
特任委員-JICA 東京連絡	三輪 達雄	(我孫子市)

第 29 回公開講演会



講師：江戸川大学社会学部専任講師 佐藤 秀樹

演題： Bangladesh から見る SDGs 時代の環境・農業問題と国際協力

恒例の公開講演会が、
2023 年 5 月 14 日 (日)
浦安市国際センター研修
室を会場にして開催され

ました。JICA 東京、浦安市国際センターから共催、千葉県と浦安市から後援の協力をいただきました。

講師は、JICA 青年海外協力隊の野菜栽培隊員としてエクアドルに派遣されたのを皮切りに、農業・農村開発コンサルタント会社や環境 NGO にて開発途上国の住民を対象とした持続可能な地域づくりへ向けた活動を実施してきました。現在は、江戸川大学社会学部の環境学を担当する教員として、海外事業経験を取入れた授業を展開しています。講演では、10 年以上に渡って継続実践している Bangladesh での環境保全と生計向上を図る取組みの成果・教訓等から、開発途上地域における市民レベルにおいて必要な SDGs の取組みやその課題解決に不可欠な国際協力の方向性について、4 分野に分けて詳細に紹介されました。以下に概要を紹介します。2013 年から 2023 年まで 12 プロジェクトの活動成果が紹介されました。それらの全てをここでは紹介できません。詳細は当会の SV レター No.52, 53 に別途掲載されています。

講演概要：2015 年 9 月に設定された SDGs の目標には「誰ひとり取り残さない」という大きなキーワードがあります。関連して、多様性の尊重、市民の参画、関係者の連携・協働、教育の重視などを重視しながらお話しします。

Bangladesh の概要と課題

・**Bangladesh の経済・社会問題：**2013 年 4 月 24 日「ラナプラザの悲劇」、2016 年 7 月 1 日「飲食店テロ事

件」、ロヒンギャ難民問題が紹介されました。

・**Bangladesh から見る SDGs17 目標との関わり：**具体的に説明されました。

・**地球規模系の環境問題：**Bangladesh はモンスーン地帯であるため、気候変動が主因と考えられるサイクロン等の自然災害が多発する。その例がサイクロン(Amphān) 2020 年 5 月である。また、レンガ製造工場は重要な製造業であるが、そこから排出される煤煙等による大気汚染の問題が発生。

・**生活系の環境問題：**生活排水やごみ処理の課題が大。

・**自然系や農業系での環境問題 (シュンドルボン周辺部で暮らす地域の主な課題)：**シュンドルボンは世界最大のマングローブ天然林であり、総面積 100 万 ha の 62%が Bangladesh 側、残りはインドに存在します。1992 年にラムサール条約登録地、1997 年に世界遺産に登録されました。この周辺部で暮らす地域の人々は、マングローブ林や生物多様性の恩恵を受けながら、自然と共生した営みをしています。

Bangladesh の環境・農業問題解決へ向けた地域での活動成果と SDGs 目標達成との関わり

最初 Bangladesh に入ったきっかけは (当時、日本環境教育フォーラムに在籍)、現地の NGO の方からシュンドルボンに特化した小学生向け教材を作るプロジェクト概要書をもらった事です。具体的だし、活動できそうだとプロジェクトを始めました。2012 年、当時、トヨタ環境活動助成プログラムという海外活動 NGO 向けのチームがあり、2 年間で 700 万円、なんとか申請も通って、それを活用してスタートしました。6 年間お金がついた事業で、先生たちや小学生も呼んでシュンドルボンでスタディツアーをやったりしました。

第 34 回 活動報告会

2023 年度は前年度より魅力的な出前講座にしたい、そのため、コーディネータと 3 名の講師が聴講者と双方向意思疎通を進められる新企画が立案され、2023 年 2 月 19 日 (日) 浦安市まちづくり活動プラザを会場として実施されました。来賓として、JICA 東京の折田明美次長と青年海外協力隊千葉 OB 会の西村邦雄会長が出席され最後に感想を述べられました。また、全参加者 25 名のなかで市民参加者も含め双方向的な意見交換も順調に行われ、新企画は滞りなく終了しました。次に、その概要を紹介します。

「異文化社会から学んだことを伝え、一緒に考える」

登内 明 コーディネータ

これまでに前出講座講師を担当された 3 名の講師にテーマを絞って話題提供していただき、参加される皆様と双方向的な意思疎通ができるように活動報告会を進めたいと思います。身近でありながら世界につながるテーマと一緒に考えてみましょう。



「開発途上国から学ぶ Two-Way Communication」

阿部 清司 講師

拙著「大学と日本の国際化」で学生参加型授業を提唱しました。学生参加型授業は、学生から見れば参加型学習にあたります。今は、学生が教員を民主的に評価する時代です。アメリカはずっと前からそうにしてきました。日本も今は、教員が効果的な教育方法についてもっと学ぶ時代です。この講演でもこの方針で臨みたいと思います。



「アラブ文化に接して広がった世界理解 文化相対主義」

高瀬 義彦 講師

シリアは、歴史の各時代を象徴する遺跡が多数残存する人類史博物館のようです。文明の十字路としてのシリアでアラブ文化に接することにより世界理解が広がりました。文化相対主



義、いわば、お国柄を認め合い平和と発展に貢献する事が大切だと気付きました。しかし、帰国後の 2011 年 3 月にシリア内戦を契機に文化相対主義の限界にも気づきました。

「ブータン王国から見た幸せとは」

三輪 達雄 講師

「幸せの国」として世界に知られるようになったブータン王国ですが、2008 年の本格的な開国から世界との交流が始まり、インターネットが普及した



りしたことで、若者を中心にして変化がおきて来ています。

ブータンのお坊さんは、「幸せになるためにはどうすればよいのか?」と問われたときに、「I want happiness」という言葉から「I」(我)と「want」(欲)を除けば「happiness」(幸せ)が残ると答えます。そもそも幸せとは何でしょう? インターネットが解禁されて情報が豊富に手に入る現在、ブータン王国の人々はこれまでと同じように幸せを感じて生きていけるのでしょうか。答えは分かりません。

自治体連携市民大学・出前講座 (2022 年 9 月 - 2023 年 9 月)

自治体連携 「八街国際理解大学」・「八街市いきがい短期大学」

第 2 回八街市いきがい短期大学 「中東の歴史と文化について」

講師：小久保 亮一 実施：2022 年 9 月 22 日



講師は派遣された国ヨルダンの事だけでなく、中東地域全体の歴史や問題点について説明しました。ユネスコ憲章の「戦争とは相互の風習と生活を知ら

ないことで、疑惑と不信をおこし、それが原因でしばしば起こるものである」という定義を冒頭に引用し、様々な問題を考えるきっかけにしました。特に、宗教に関わる歴史的な問題を知ることが、中東地域を理解する上でとても重要になることを力説し、詳しくその説明をしました。ユダヤ教のモーゼ、キリスト教のキリスト、そしてイスラム教のムハンマドすべて偉大な預言者

アブラハムの子孫であり、アブラハムの宗教と呼ばれています。しかしながら解釈の違いがあり、他の宗教を受け止められないことなどが原因で、多くの戦争を引き起こしてきました。過去の十字軍の遠征や、中東戦争、最近の湾岸戦争やテロ事件なども同じです。

講義の最後の部分で講師の奥様がパレスチナの民族衣装や民芸品について説明しました。民族衣装の刺繍のデザインや色使いに重要な意味があることや、最近ではシリア難民をたくさん受入れ、彼女たちが得意な刺繍の民芸品が貴重な現金収入にもなっていることも紹介されました。参加者はとても熱心に耳を傾け、講義内容に聞き入っていました。

第 3 回八街国際理解大学 「世界の剣道から見た日本」

講師：添野 良一 実施：2022 年 9 月 24 日 (土)

日本とは季節が反対ですが、南半球ウルグアイの自然やそこに暮らす人々について詳しく紹介されました。剣道はフェンシングのようにオリンピック競技ではありませんが、世界中にフェン

シングを上回る多くの競技愛好者がいます。それは、精神を鍛えることに主眼を置き、



礼儀作法に厳しく、そのために感じられる動きの美しさに惹かれるからです。講師自身あまり意識していなかったようですが、以前マレーシア・ボルネオ島のコタキナバルに派遣された際、その人々の熱心さからその事に気づき始めました。ウルグアイでの活動を通じて感じたのは、嫌なことは気にせず、楽しいことを

しっかり覚えておくこと、外国から日本を眺めてみることの大切さ、夢はあきらめなければ実現することなどです。台風 14 号接近中に行われた講演でしたが、参加者の意識は高く、和気あいあいとした雰囲気の中で意義深い講演が行われました。たくさんの質問もあり、講義内容の深まりも感じました。

第 4 回八街国際理解大学「ラテンアメリカ 3 カ国での国際交流と文化について」



講師：浦木 仁 実施：2022 年 11 月 26 日 (土)

メキシコ、チリ、コロンビアはスペイン語圏の国ですが、人々の考え方や文化も違うことを知ってもらうことが講演テーマです。メキシコは、細かいことを気にしない寛容な国民であり、大家族で暮らすとても開放的な国民性です。一方、仕事に計画性がなく、時間にはとてもルーズです。チリは、決めたことはきちんと守ろうとする気風があり、時間を良く守ります。核家族が多く、開放的な雰囲気は少ない。コロンビアは、人情に厚くとても公正に物事を判

断します。物事の順位をつけることを嫌う反面、競争に勝ち抜く強さに欠けるなどの特徴があります。うらやましく感じたのは、チリでの生活では、毎朝 7000 メートル級の雪をかぶったアンデス山脈が眺められ、生活と一体化していることです。また、コロンビアのメデジンは赤道に近い位置にも関わらず、標高が 1500 メートルもあるので、1 年中温暖で、シャツ 1 枚で快適に暮らせることです。更に、メキシコで良かったことは、仕事を通じた人々との触れあいの中で、人々に尊敬され、また 1 人の仲間として協力しながら活動できたことです。

第 5 回八街国際理解大学「香港から見た中国と日本の行方」

講師：北垣 勝之 実施：2023 年 1 月 28 日 (土)

「香港から見た中国と日本の行方」と題して、ご自身の香港駐在時の中国で体験やそこで感じたことを中心に、歴史的観点から講演、以下の 2 つの観点を重視されました。

1) 「東洋の真珠」香港の誕生と興亡

生い立ちから英国植民地として発展してきた経緯を、①越族集落から阿片受難期、②英国統治(前期)、③日本軍統治期、④英国統治(後期)、⑤主権返還後(一国二制度維持)、⑥同左(一国二制度復古)の六区分に分け、政治・経済・社会・文化の諸相から概観されました。

2) 中華人民共和国の勃興と問題点

インフラ整備、歴史遺産の目覚め、事大主義の疼き、世界覇権への野望など、今日的テーマに沿って話され、少数民族、人口問題、二つの民主主義、愛国観念、軍事大国化、さらに科学技術・情報産業・宇宙開発への取り組みについても触れられました。



第 6 回八街国際理解大学「グアテマラの文化について」

講師：江田 隆正 実施：2023 年 3 月 25 日 (土)



日本がまだ縄文時代の頃の 3000 年前、マヤ文明は天文学・数学・複雑な文字を持つ高度な文明でした。それが 1500 年前に突然滅びてしまいました。スペイン侵攻の時代には既にマヤ文明の末裔は東の高地にのみいて、低地帯のジャングルにはいないためマ

ヤ遺跡は近年になるまで発見されませんでした。現代のマヤ族にはその文明が全く継承されていないことが「失われた文明」の由縁であること、その原因も未だに解明されていない不思議について話されました。現在の街の人々は豊かではあるが、貧富の差が大きく、特に子供たちの教育環境は、親が金持ちであるかないかで決まり、この格差は一層広がっていることなど、日本との比較を交えながら紹介されました。

2022 年度に、以下の方々（敬称略）から当会に 10,704 円のご寄付がありました。大変ありがとうございます。

阿部 清司、浦木 仁、江田 隆正、北垣 勝之、小久保 亮一、佐藤 秀樹、白鳥 貞夫、添野 良一、登内 明、中西 陽典、中村 時夫、服部 正、三輪 達雄

第 1 回八街市いきがい短期大学「パラグアイ・ケニア・ウズベキスタン・インドネシア 4 カ国の手で触れた宗教文化について」



講師：田畑 成章 実施：2023 年 7 月 19 日 (水)

JICA シニアボランティアとして活動された国々での経験の中から、今回は宗教文化について独自の観点から講演されました。各国の民族・人種構成などの図表を用いてわかりやすく説明され、また歴史的背景からその国の宗教が複雑に、そしてモザイク模様になっていることを、実際に見聞き

した事象を紹介し、話されました。言語も、公用語のほかに民族ごとに持つ独自言葉があり、人々はプライドを持っています。このように多彩な 4 カ国の情報をうまく 1 時間半でまとめられていました。特に「イスラム教」については日本でしばしば報道されているのとは違い、「イスラムは寛容であること」を現地の人々との交流のなかから強く感じていると話されました。

第 1 回八街国際理解大学「シリアに 3 年住んで深まったアラブ文化理解」

講師：高瀬 義彦 実施：2023 年 7 月 22 日 (土)

シリア国立ティシュリーン大学工学部に赴任、日本人がイスラム社会に抱きがちなステレオタイプはみられないこと、接したシリアの人々は外国人に対しても友人のように接することが多く、このようなシリア文化の源流として「歴史的シリア」と「文明の十字路」に注目されました。深まったアラブ文化理解の例として、アラビア数字、イスラム黄金時代、千夜一夜物語に見られる人々の生きざま、伝統ダンス等が挙げられました。文化相対主義の立場に立てば、互いのお国柄を尊重できると思いで 2009 年に帰国。しかし、2011 年に発生した内戦により

その考えの限界を知り、限界を補う視点として、元 JICA 理事長の緒方貞子氏が国連で提唱した人間の安全保障の考えに注目されました。2023 年現在の大学の写真には内戦の痕跡はなく、赴任当時と同じであり、内戦の克服が望まれました。



第 2 回八街市いきがい短期大学「中南米の民族と文化 - マヤ文明の不思議」



講師：江田 隆正 実施：2023 年 9 月 6 日 (水)

「シニア海外ボランティアに応募したきっかけ、グアテマラの紹介、シニアボランティアの活動、マヤ文明とは」項目の講義レジュメがあらかじめ配布されました。当会 2 回目の講演ということもあり、聴講者の興味のある話題から始められました。マヤ民族の起源と文明の歴史を同時代の日本と比較しながら話し、なぜ「失われ

た文明」と言われるのか、マヤ文明は末裔のマヤ民族に継承されることなく消滅してしまった、その原因は？など聴講者と一緒に話が進められました。さらに、現代のグアテマラの状況や人々の生活、任地での活動が紹介されました。
Q：部族間の争いが原因としたら勝者は残らなかったのか？
A：原因は確かでないが、都市そのものを放棄し文明や遺跡を守る人がいなくなりました。
グアテマラの女性の地位は？など話題が尽きませんでした。

第 2 回八街国際理解大学「文化とは何か？ - 日本固有の文化とパプアニューギニアの文化」

講師：坂出 直哉 実施：2023 年 9 月 23 日 (土)

千年以上に渡って一つの文化を継承している日本の文化は世界では非常に特異なことで、パプアニューギニアは 800 以上もの部族がそれぞれの言語を持つ多彩な国です。ボランティア活動は「医薬品の管理」でした。医薬品は 100%輸入で、医療品は政府が一括購入し各地の病院に配布されるのですが、在庫管理はほとんどされていないので、その改善指導を行いました。パプアニューギニアの自然はとてもきれいで、日本からの観光客は「戦争の慰問」と「スキューバダイビング」の対照的な二つの目的で訪れます他、概略、このような話題を

披露されました。
Q：なぜ、パプアニューギニアはイギリス国王が君主？
A：イギリス連邦の一国として 1975 年に独立したため、日本とは異なります。

戦争の傷跡の残る島々と内陸の部族の多彩な習慣など興味深く聞き、日本の文化との違いに話が尽きなく、あっという間の一時間半でした。



公民館・柏市学校訪問事業「出前講座」

市原市立五井公民館「開発途上国から学ぶ - 現地人の目線で日本を見つめ直す」

講師：阿部 清司 実施：2022 年 9 月 16 日 (金)



南北 3700km に及ぶ国土はそれぞれの地点で新しい感動

アルゼンチンには南米大陸の自然のすべてがあり、未知の美しさが無尽蔵にあります。乾燥しきった北の平原から南の氷の大地まで、

的な光景を示します。西にはアンデス山脈が四季折々の彩りをそえ、東に向かっては肥沃なパンパの大草原が広がります。アルゼンチンはヨーロッパ移民の豊かな国ではありますが、発展は停滞しています。その社会に中南米に共通する伝統的な諸問題が根強く存在します。このような内容の話を多くの聴衆と一緒に楽しく進められました。

袖ヶ浦市平岡公民館「知られざる国バヌアツの素顔」

講師：白鳥 貞夫 実施：2022 年 9 月 17 日 (土)

常に幸福度の上位に位置するバヌアツについて自身の経験から話され、幸福とは何かを問題提起する講演内容でした。バヌアツの子供には蒙古斑もあり、又、日本の説話と似た伝説が存在するなど興味深い話もありました。バヌアツではフルーツやイモなどが自生し、食べるものに困る事はありません。そのため、金銭欲がありません。また、バヌアツには地下資源等がなく、他の国の植民地支配を受けなかった経緯があります。経済発展をしなかったことが幸福度に繋がっているという示唆がありました。印象的な話しは、他の発展途上国と異な

り、子供達が外国人に対し物乞いをしないということでした。また、バンジージャンプの起原とも言われている竹で組んだ櫓から足に蔦を結びつけ飛び降りる儀式も一般的に言われている成人になるための通過儀礼ではなく、ヤムイモの収穫祭で行われる儀礼であることなど、多くの興味深いお話がありました。とても考えられた講演構成になっており、わかりやすく有意義な講演内容でした。



木更津市立東清小学校「多様な国、多様な人々を理解しよう - 平和で住みやすい世界実現のために」

講師：中西 陽典 実施：2022 年 11 月 17 日 (木)



全校 51 名、職員約 20 名が対象です。

どうして多様な国々、多様な人々、多様な文化が生まれたか説明され、業務

により駐在、訪問または私的な旅行を通じ体験したいくつかの国の文化、人々の風俗、習慣、生活が紹介されました。JICA シニアボランティアで赴任したドミニカ共和国とアルゼンチンの歴史、文化、自然、生活が紹介され、ボランティアとし

て活動したことやこれまでの会社業務やボランティア活動を通して感じたり納得したりしたことが話されました。

多様な国、多様な人々と仲良くするためにできること - 皆さんが異文化と感じ、仲良くするためにできることを話し合ってみよう。国際協力と SDGs って何？そして皆さんができること、皆さんがこれから生きていく上でヒントになるアドバイス。

報告者の感想：講師の経験に基づく話で、一つ一つが興味深く説得力がありました。ポンチョやマテ茶を飲む器など実際に使われている物も興味をもって見ることができました。

酒々井町中央公民館「海外から見た多文化共生～世界の剣道から見た日本～」

講師：添野 良一 実施：2022 年 12 月 1 日 (木)

講師は多数の国で剣道を指導、今回は南米ウルグアイでの経験をお話しされました。落ち着いた雰囲気では話が進められ、講義途中でも受講者からの質問に対し、丁寧に答えられました。ウルグアイの自然や人々の生活が写真を使い楽しく説明されました。休憩をはさんで後半からは現地での自身のボランティア活動について話しが進み、「剣道は武術競技であるが精神を大切に競技で、勝敗は美しさが必要で、ただ勝

てばよいというのではない」と熱く語っていました。そして、最後に「みなさんのように常に学ぶ姿勢が幸せにつながり、海外から日本を見ると日本の良さがわかります。一度は海外に出て行くこと、特にお孫さんには海外経験をお勧めします。」と話しされました。



増尾西小学校「素敵なパラオの人たち」



講師：中村 時夫 実施：2023 年 1 月 26 日 (木)

パラオ諸島は北太平洋ミクロネシアの中にあります。一番大きいのはペリリュー島です。

パラオ諸島の歴史：スペイン人が発見、スペイン、ドイツの後、第一次世界大戦後に日本、第二次世界大戦後にはアメリカが委任統治した後、独立しました。気候的には亜熱帯に属し、一年中蒸し暑い気候です。人々は温厚で、人懐っこく、暮らしやすい国です。日本人、日本に親近感を持って

いて、年を取った人を中心に、日本語を話す人もいます。日本語由来の表現もいろいろ残っていて一般に使われています。漁業や果物栽培が中心で産業はあまりなく、生活は質素ですが、人々はゆったり暮らしています。日本も橋や港を造るなど、色々援助しています。地球温暖化による海面の上昇が大きな問題になっています。

報告者の感想：生活の様子や体験談、ボランティアの内容を詳しくお話いただきました。事前にパラオや JICA について事前学習をしていたのでさらに理解が深まったようでした。

検見川公民館「ヨルダンの家庭料理を楽しむ」

講師 小久保 良一夫妻 実施：2023 年 5 月 25 日 (木)

シニアボランティアの会として初めての試みの任国料理の紹介および実習でした。小久保夫妻によるヨルダン料理の発祥の説明から始まり、事前に準備されていたレシピに従い、ターメリックライス、ヨーグルトソースさらにはデザートとしてキャラットケーキづくりを楽しみました。エスニックな食材がふんだんに使われ普段なかなか味わえない料理を堪能できました。殆どの参加者は料理に精通していて、小久保夫妻の説明をききながら、積極的に味付けなどを行い、特にヨルダンの珍しいスパイスなどには皆、興味を持ちながら味付けの調整を行っていました。参加者は今日が初対面でしたが料理が進むにつれ和気

あいあいとなり、食事中は料理の話題でおいに盛り上がっていました。

報告者の感想：初めての試みであり、また当初は参加者が少ないことが懸念されていましたが、公民館側の協力および小久保夫妻による種々段取りのおかげで大盛況に終わりました。特に参加者たちは料理実習が進むにつれ、積極的に参加する姿勢がみられ、これは通常の講演会などの出前講座ではなかなか見られない状況でした。



柏市富勢東小学校「世界一幸せな国になったコスタリカとはどんな国」(海外からのオンライン授業)



講師 服部 正 実施：2023 年 6 月 28 日 (水)

講師派遣先のコスタリカと結ぶ初めての試みのオンライン授業なので生徒を含め皆さん緊張して始まりました。

まず講師は「今、こちらは 6 月 27 日の夕方 7 時です」と始めコスタリカが地球の裏側に位置することを伝え、パワポの資料を使ってコスタリカの街の様

子を話されました。任地で教えている子供たちの様子やインタビューの映像を映しながら、コスタリカの子供たちのことを伝え、彼らはコスタリカが幸せな国であることを誇りに思っていることなどを丁寧に話されました。生徒たちは、地球の裏側から話かいていることに慣れるまでは静かに講師の話を聞いていました。30 分過ぎくらいから講師からの呼びかけに答えて生徒たちの反応も良くなり、最後は質問攻めに。無事に終了しました。

鎌ヶ谷市北部公民館「剣道ボランティアが見た日本」

講師 添野 良一 実施：2023 年 7 月 20 日 (木)

- 1 自己紹介
 - 2 ウルグアイの紹介
 - 3 剣道ボランティア活動の実際
 - 4 世界の武道、剣道の実情
 - 5 マレーシアで剣道仲間に出会ったエピソード
 - 6 私の伝えたいこと -まとめ-
- 外部から（できれば外国から）自分を見る体験は重要だ。

日本文化は、実際世界一だと分かるだろう。
夢（思い）は、必ず実現する。死ぬまで信じ続ける。
講義の最後におこなったワーク I・II での話し合いで、受講生の気付きがあったのではないかと思います。



派遣先からの会員メッセージ

渡辺 章

派遣国：タジキスタン 職種：公衆衛生（シニア海外協力隊）



配属先であるタジキスタン国アビセンナ州立医科大学は、1939 年開学の歴史ある医科大学であり、教員数約 800 人、学生数約 9000 人が在籍する医学総合大学で 5 学部があります。

私は、公衆衛生学部医学史のコースのある医療統計学学

科にて活動を行っています。学生に対する授業科目に「医療経済」という科目があります。この科目の講義内容の見直しと、充実を計るための、助言を求められています。現在は、配属先にて働き始めて 1 か月ほどであり、職場の人員、講義内容などの確認を行っています。今までは短期派遣の SV だけ、現在は私 1 名だけで、2 年間派遣の初代隊員となりました。

島中 一俊

派遣国：ミャンマー 職種：JICA ミャンマー事務所企画調査員



私は、企画調査員として JICA ミャンマー事務所へ派遣されています。任期は、2022.7～2024.6 の 2 年間です。当事務所では、コロナ禍に加え政変の影響で難しい対応を迫られ、ボランティア

派遣は中止です。主に事務所内の各種システム開発、

PC・NW 環境の整備、情報セキュリティ関連の対応を担当しています。機器不具合が頻発し対応に追われる毎日です。生活面では、私は SV として 2018 年から 2 年間同じくヤンゴンに派遣されたので勝手を知っている街ですが、安全面から徒歩移動禁止、ヤンゴン外への移動制限がありストレスが溜まります。でもヤンゴン市内は車も人通りも多い状況です。

自治体・JICA 関連イベント・会員の動静

ちば市国際ふれあいフェスティバル 2023

ちば市国際ふれあいフェスティバル 2023 が 2023 年 2 月 5 日（日）千葉市国際交流プラザで 4 年ぶりに開催されました。ステージと個別ブース出展のプログラムで構成され、当会は、「出展のみ」で参加しました。全 13 団体の参加でした。ステージでは、開会式に続いて 7 団体によるパフォーマンスが披露されました。当会は開発途上国で行った活動の写真パネルの展示と国際クイズを行いました。クイズの正解者には、当会の会員が派遣国で入手したお土産品などをプレゼントし

ました。正解がなかった方には派遣国の写真を参加賞として差し上げました。クイズには、小学生、中学生、外国国籍の方々、市民の方々が参加されました。午後 3 時頃、ステージでのビンゴゲームが終了し閉会式を迎え、お別れの歌「今日の日はさようなら」を歌い終了しました。



JICA 海外協力隊千葉県庁表敬訪問

2023 年度 1 次隊の県庁表敬訪問 が 2023 年 7 月 14 日（金）におこなわれ、当会からは中西会長が出席しました。千葉県出身の JICA 海外協力隊員は 13 名でした。

2023 年度 2 次隊の県庁表敬訪問が 2023 年 10 月 6 日（金）におこなわれ、当会からは中西会長が出席しました。千葉県出身の JICA 海外協力隊員は 14 名でした。

会員の動静

会員数 64 名（2023 年 10 月 1 日現在）

2022 年 10 月以降、派遣後帰国された会員はいません。

2023 年 9 月現在派遣中の会員は次のとおり（敬称略）。

岡崎 英子（千葉市）ニカラグア 音楽

服部 正（八街市）コスタリカ 体操競技

石橋 明（山武市）ガーナ PC インストラクター

渡辺 章（松戸市）タジキスタン シニア案件/公衆衛生

島中 一俊（千葉市）ミャンマー 企画調査員(DX 担当)

編集後記

新規帰国会員がいない状態が 3 年以上続きその活動報告ができないため、2022 年度第 7 回役員会で「SV ニュース千葉第 38 号」は休刊にするとされました。ただし、諸活動自体は本号紹介の通り新企画もいれて継続されました。各氏名は敬称略で記載しました。講演資料が提供された場合は、ほとんど全文を SV レターに掲載：<https://sites.google.com/view/sv-letter/home>